

# 2021年度看護基礎研修会 ご質問について

**Q1** 自家移植の患者さんで仕事が工事現場監督の患者さんにはアスペルギルス予防として仕事の休職期間をどの程度と考えたらいいでしょうか？

**A1** 担当医師と相談となると思います。

自家移植後半年～1年は完全に免疫が回復していないことが予想されます。そのため明確な指標などはありませんが、工事現場の業務には注意されるのがよいと思います。具体的な対応については、担当医師とご相談ということになるかと思われます。

**Q2** 前処置においてTBIをする患者、TBIせずに化学療法のみを行う患者の線引きを具体的に教えてほしいです

**A2** 年齢、移植片、疾患を考慮し、施設で判断されます。

参考に、大阪市立大学医学部附属病院ではさい帯血移植の場合、全例TBIを行います。リンパ系腫瘍のフル移植（骨髄破壊的前処置）の場合TBIを使用することが多いです。しかし、TBIを実施しやすい施設かなど、施設によっても異なります。

**Q3** 個別対応食はどこまで対応していますか？完全個別でしょうか？それとも付加食や主食変更（麺に変更する）などで対応されていますか？また、完全個別対応の方は何名くらいおられますか？

**A3** 主に付加食（その日はある料理を選択する）ですが、全く個別の料理を作ることもあります。完全個別の方は年に1～2名だと思えます。

Q4

当院では退院前にパンフレットを用いて指導を行います。今回講義を受け、造血幹細胞移植手帳をぜひとも活用したいと思いました。この手帳はホームページなどから入手可能なのでしょうか？

A 1

拠点病院へメールでご連絡ください。

[isyokukyoten\\_ocu@med.osaka-cu.ac.jp](mailto:isyokukyoten_ocu@med.osaka-cu.ac.jp) に 施設名やお名前、必要な部数、送付先などをメールでご連絡ください。

また、その他のパンフレットなどは、大阪市立大学医学部附属病院・造血幹細胞移植推進拠点病院 (<https://isyokukyoten-ocu.jp>)のホームページ「資料・お役立ちツール」よりダウンロード可能なものもあります。

\*大阪市立大学医学部附属病院・造血幹細胞移植推進拠点病院

